

会報

NO.17

令和4年6月5日発行
 特定非営利活動法人なごや歴まちの会
 名古屋市中区種木町3-58
contact@758rekimachi.net

令和四年度 通常総会の開催

五月二十一日(土)三年ぶりの集会形式で、通常総会が名古屋都市センターホールで開催されました。来賓として、名古屋歴史まちづくり推進室の野口知愛室長、登録文化財所有者の会の大辻織絵理事、名古屋まちづくり公社の山内正照参事、鬼頭豊主査、近藤亜弓さんも来てくださる中、加藤理事長からは「文化を繋いでいくためにも建物の保存活用は大切なこと、コロナの間をぬって楽しく活動していきましょう」と挨拶がありました。

第一号議案令和三年度事業報告・決算報告、監査報告、および第二号議案令和四年度事業計画(案)・活動予算(案)・新委員会の設置と委員の募集について提案があり、両議案とも拍手多数で議決されました。(正会員百名中、委任者含む六十八名参加)西澤先生はご欠席でしたが、メッ



セージをお寄せくださりました。「この十二年間で歴まちびとを百人ほど養成することができ、皆さんの活動があつて名古屋での歴史まちづくりも少しずつ進んできた。今後も期待している。」との言葉に励まされますね。

最後に、名古屋まちづくり公社山内参事より「名古屋市における歴史まちづくりの取り組みとNPOに期待すること」と題してご講演をいただきました。歴まちの会に対して、人材の育成、登録物件の拡充、危機情報の共有化などを公社と連携してやっていきたいと思いますとお話でした。今年度はますます公社との連携が重要になると思われまます。

今年度は新委員会(スキルアップ・鳴海界限・堀田界限・歴史記録・見学ツアー・フォーアアップ)に集まったメンバー同士で主体的に活動していければと考えています。コロナでいままではできなかった、歴史まちづくりを一緒に取り組んでいきたいと思います。

令和三年度第三回理事会の開催

一月二十四日(月)、理事会がZoom会議(理事十一名参加)で開催されました。審議事項は令和三年度「事業実施状況および方針変更について」で、三年度に予定していた各事業についてコロナのため内容の変更や中止を検討していることが報告され、了承されました。

令和四年度第一回理事会の開催

四月二十五日(月)、理事会がZoom併用会議(理事十一名参加)で開催されました。審議事項は総会に付すべき事項として、第一号議案令和三年度事業報告・決算報告、第二号議案令和四年度事業計画(案)・活動予算(案)・新委員会の設置と委員の募集について。両議案とも賛成多数で承認され、総会に議案として提案されることになりました。

『事務局だより』

確定申告と市県民税の納付

令和三年度の確定申告と市県民税の納付を行いました。税額は次のとおりでした。

法人税	四、八〇〇円
地方法人税	四〇〇円
法人市民税	五〇、二〇〇円
法人県民税	二二、五〇〇円

調査報告その一

名古屋立大学滝子キャンパス 教育研究会館調査業務委託

滝子キャンパスに隣接する教育研究会館は、昭和初期に建設された邸宅であり、市立大学が寄付を受け教育会館として利用してきた建物です。老朽化や破損があり利用できなくなっていたため、これを調査し修理概算費用を算出する業務を公社から委託され、十二月十四日に現地調査を行い、その後改修工事内容、概算工事費を報告書にまとめました。



教育研究会館庭園



教育研究会館外観西面



教育研究会館外観全体

報告その二

瑞穂区堀田地区歴史的界限調査

三月十二日(土)、瑞穂区の堀田界限において会員十一名が参加し歴史的界限現地調査が行われました。調査内容はこれまでの界限調査と同じ土地・建物の現況調査でしたが、この地域を取り上げることになったのは、第四期歴まちびと養成講座のグループが「いいとこ探し」で調査した結果が今後につながる可能性があるかと公社に認められたことがきっかけです。今年度、歴まち会でもさらに取り組んで、建物の保存活用を実現していければと考えています。



堀田地区町屋

『会員紹介』

澤村 喜久夫 / さわむらきくお
理事 (事業担当)



堀田界限調査集合写真



旧二川宿のまちなみ

歴史的建造物とのかかわりは、学生時代に遡ります。設計演習と構造が苦手、建築史研究室を選びました。「東海道」の宿場に関する研究をテーマに、夏休みにはゼミ学生総出で町屋の実測調査に出かけました。真夏の小屋裏はサウナ状態で、野帳は汗で真黒になり、空き家では皮膚が腫れ上がるほどダニに刺されるなど、楽しくも辛い思い出が蘇ります。卒業研究は旧東海道二川宿本陣遺構の復原設計をテーマに与えられ、伝統的構法について深く

学びました。

恩師の紹介で建築設計事務所に入社し、入社翌年に史跡指定された二川宿本陣の保存のための改修復原設計を担当することになります。その後旧二川宿の旅籠や商家遺構の復原工事に携わりました。

平成二十八年、二川地区は都市景観大賞の表彰を受けました。重伝建地区のような連続した町並みが残るわけではありませんが、宿場遺構を残しながら官民一体となって景観形成に取り組んでいることが評価されました。学生時代に関わった本陣の復原から三十数年、まちづくりに繋がったことを嬉しく思っています。

蒲 珠妙

事務局員 (企画担当)



なつな会開催風景

歴史的建造物に興味を持ったのは、なごや歴まちの会のヴォーリズE 近江八幡見学ツアーに参加したことです。

その後、歴まちサポーターの養成講座を受講して、歴史的建造物の維持・保存活動の大切さを学びました。

私は、『なつな会』の実行委員をしています。(なつな会は、懐かしき名古屋の町をいっしょに楽しむ会の略です。)

二〇一六年から始めて七年が経ちます。

初めた頃は、年一回二日間の二百名近い参加者の方が、東山荘、建中寺、白鳥庭園をゆっくり建物見学・庭園散策を楽しんでもらいました。

三年前にコロナの影響で人の動きが変わりました。とても不安でした。

その中でも出来る方法で歴史的建造物の良さを伝えたい、そして、人と会うことの大切さを感じました。

今は、少人数が集まる『大人の教養講座』を開催しています。

建物の説明、各方面の専門的に優れた講師を招いています。

私は、歴史的建造物の外観、特に屋根の流れがとても好きです。よく上を向いて写真を撮っています。内観は、天井まわり、階段の造り、建具の細かい細工を見ると一つ一つ丁寧に仕上げた職人さんのこだわりを感じて嬉しくなります。

なつな会の実行委員をしながら歴史的建造物の大切さを伝えていきたいと思っています。

